

## ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP） 2009年度審査結果について

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構（HFSPPO）が、2009年度の助成プログラムの審査結果を発表しました。

### 2009年度 各助成制度の応募数及び受賞数

研究グラント	応募状況		受賞状況	
	応募 チーム数	応募者数 ( )内は日本人	採択 チーム数	採択者数 ( )内は日本人
プログラム・グラント	460	1,502(101)	26	84(7)
若手グラント	140	380(25)	9	27(2)
合計	600	1,882(126)	35	111(9)

フェローシップ	応募状況		受賞状況	
	応募者数	日本人 応募者数	採択者数	日本人 採択者数
長期フェローシップ	633	55	93	6
学際的フェローシップ	39	1	7	0
合計	672	56	100	6

CDA（キャリア・ディ ベロップメント・アウ ード）	応募状況		受賞状況	
	応募者数	日本人 応募者数	採択者数	日本人 採択者数
	49	7	22	4

(2009年度に採択された日本人研究者)

**■プログラム Grant : 7名採択 (研究代表者2名)**

① 中村 加枝 (研究代表者 関西医科大学医学部 教授)

セロトニンによる意思決定: 様々な種における実験—計算論的アプローチの統合

② 渡邊 直樹 (研究代表者 京都大学医学研究科 准教授)

人工的に極性を与えられた細胞におけるアクチン線維回転の恒常性と制御分子の空間不均質性

③ 橋本 秀樹 (大阪市立大学大学院理学研究科 教授)

空間・時間分解分光測定による光合成初期反応における超分子複合体配列の機能解明

④ 佐藤 勝重 (駒澤女子大学・人間健康学部・健康栄養学科教授)

ランダムアクセス型非線形光学システムを用いた中枢神経系の機能発達過程の解析

⑤ 竹安 邦夫 (京都大学大学院生命科学研究科・教授)

微小管-動原体接合部の多角的解析

⑥ 田中智之 (ダンディー大学教授)

動原体微小管結合の学際的研究

⑦ 北澤 茂 (順天堂大学医学部 教授)

運動記憶の複数の時間尺度

**■若手研究 Grant : 2名採択**

① 佐藤 政充 (東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻 助教)

細胞極性成長の生体内および計算機上での定量的解析

② 櫻井 香里 (東京農工大学大学院共生科学技術研究員・特任准教授)

細胞分裂における脂質分子の役割を探る

**■キャリアデベロップメントアワード : 4名採択**

① 滝沢 琢己

(奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科・分子神経分化制御学 助教)

“Spatial gene positioning and transcriptional regulation in the nervous system”

(神経細胞における遺伝子座の核内配置と転写制御)

フェローシップ受賞歴: 米国 国立がん研究所 (2004年~2008年)

② 石川 春人

(自然科学研究機構分子科学研究所 特別研究員 特任助教)

“Molecular mechanism of heme crystal formation”

(ヘム結晶化の分子機構)

フェローシップ受賞歴: 米国 スタンフォード大学 (2006年~2008年)

**③石井 優**

**(大阪大学免疫学フロンティア研究センター・生体イメージング研究室 淳教授)**

“Migration and differentiation of osteoclasts in vivo: visualized by intravital bone imaging”

(骨組織のライブイメージングを用いた破骨細胞のインビボでの遊走と分化の解析)

フェローシップ受賞暦：米国 国立アレルギー・感染症研究所 (2006年～2008年)

**④井垣 達吏**

**(神戸大学大学院医学研究科・特命助教)**

“Dissecting cell competition that governs epithelial intrinsic tumor suppression”

(上皮の内在性癌抑制システムを司る細胞競合機構の解析)

フェローシップ受賞暦：米国 エール大学 (2004年～2007年)

**ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）について****1. 概要**

背景 1987年のベネチア・サミットにおいて、中曽根首相（当時）が提唱

目的 生体の持つ優れた機能の解明のための基礎研究を学際、国際、若手重視の理念の下に推進し、その成果を広く人類全体の利益に供すること

成果 研究グラントを受けた研究者のうち13名がノーベル賞を受賞

運営支援国 日本、米、英、仏、独、伊、EU、スイス、加、韓、豪、NZ、印、ノルウェー

我が国は、約32.2億円（平成21年度予算、全体の約5.1割）を拠出

**2 事業内容****■実施主体**

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構(HFSPO)(1989 設立)

評議員会会長：有馬 朗人 (財)日本科学技術振興財団会長

事務局長：Ilksto・ルト・ヴァイ・ヴァイカー 欧州研究会議（ERC）議長

**■助成研究対象領域**

生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究

(具体的には、分子レベルでの生物学的機能や、高度な脳機能の解明など)

**■助成事業内容**

①研究グラント事業：国際共同研究チームへの研究費の助成

プログラム・グラントと若手研究者グラントの2種類。2ヶ国以上の研究者（異なる研究分野）からなるチームを対象。助成期間は3年間で、年間の助成額は最大45万ドル。

2009年度：35件（うち日本人研究者9名（研究代表者2名）採択）

プログラム・グラント26件（うち日本人研究者7名）

若手研究者グラント（准教授、講師等が対象）9件（うち日本人研究者2名）

②フェローシップ事業：国外での研究を行うための旅費・滞在費の助成

(1) 長期フェローシップ事業

博士号取得後3年以内の研究者を対象。新しい研究分野に挑戦することを重視。助成期間は3年間で、助成支援の3年目（最終年）には本国へ帰るか、引き続き受け入れ先で研究を続けるかを選択できる。年間の助成額は約4万5千ドル。家族手当、語学研修手当有り。

2009年度：93名（うち日本人研究者6名）採択

(2) 学際的フェローシップ事業

生命科学分野以外（物理学、化学、数学、工学等）の研究者が国外で生命科学分野の研究を行うことを支援。応募条件は長期フェローシップと同じ。

2009年度：7名（うち日本人研究者0名）採択

(3) 短期フェローシップ事業

新たな知見の習得、新しい分野の共同研究の確立、新たな国際的共同研究立ち上げのための結果の収集などを支援。随時採択。助成期間は2週間～3ヶ月

③ キャリア・ディベロップメント・アワード事業：帰国後の支援

若手研究者が帰国時に独立した研究を始めることを支援。助成期間は3年で、助成額は、総額30万ドル。2000年以降に長期及び学際的フェローシップを2年以上受給した研究者を対象（終了から2年以内）

2009年度：22名（うち日本人研究者4名）採択

④ 受賞者会合事業：受賞者の国際的な研究集会

グラント・フェローシップ受賞者が一堂に会し、最先端の研究成果について情報交換、討議等を行う。2008年度はドイツ（ベルリン）で開催。2009年度は東京にてHFSP20周年記念式典及び第9回受賞者会合を開催。